

【特色あるフロンティアスクールの取組事例】

都道府県番号	23
都道府県名	愛知県

(    )

・学校名及び規模

尾西市立第一中学校										
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数	
学級数	8	7	8				1	24	43	
生徒数	288	266	294				2	850		

・実践研究の概要（主題（テーマ）及び設定の趣旨）

・主題（テーマ）

確かな学力の向上をめざして

～少人数指導・選択履修・総合的な学習の時間を中心とした指導方法の改善や評価の工夫を通して～

・テーマ設定の趣旨

確かな学力を身に付けさせるためには、生徒一人一人の実態に応じた指導方法の工夫・改善や指導体制づくりが必要である。そこで、理解や習熟の程度に応じた少人数指導やチームティーチングの授業を実施することにより、基礎・基本の確実な習得と学習意欲の向上をめざし取り組んでいきたい。また、選択履修では生徒の興味・関心に応じて自ら課題を設定して追究する課題学習や発展的な学習を行う教科、生徒の能力・適性に応じて補足的に行う教科など多様なコースを設定して、個に応じた能力の伸長をめざしていきたい。

さらに、啓発的体験学習を核にした総合的な学習の時間を実践することにより、学び方や生き方を身に付けさせ、より確かな学力の向上をめざし研究を進めていきたい。

・実践研究の内容について（選択した観点を中心に記述）

( ) 研究体制の工夫

1 1年生の数学・理科・英語において少人数指導を導入する。

数学においては習熟度別学習を実施し、個に応じた指導方法や授業の改善について研究を推進し、基礎・基本の定着を図る。

英語においては、1学期当初は習熟度の差が小さいので、グループ間等質のコース別学習を展開する。2学期より習熟度別学習を実施する。

理科においては、設備・安全面の関係から、1教室のTT方式を導入する。個人の特性や発想を生かした実験・観察を展開できるようにする。

2 2・3年生の選択教科に多様なコースを設定する。

2・3年生とも、週2時間を生徒が主体的に選択した教科で、自ら進んで学習課題を見つけ、追究活動ができるよう4教科と5教科からそれぞれ1教科ずつ選択できるようにし、個性伸長を図る。3年生の週2時間については、将来を見通し、自分を見つめてしっかり身に付けておかなければならない教科や内容を自ら考え、国語・数学・英語から1教科選択できるようにし、基礎・基本の充実を図る。

3 啓発的体験学習を核にした総合的な学習の時間の設定

各教科の学習などで身に付けた力を生かし、3年間を見通した啓発的体験活動を中心に学び

方を身に付けさせ、自己の生き方を考えることができるようにさせる。

( ) 実践研究の内容（紙面の都合上、1年生の数学と英語の少人数指導について記載）

1 1年生数学科少人数指導の実践

コース編制

4月当初は、生徒の理解や習熟の程度を十分に把握できていなかったため、チーム・ティーチングで授業を進めていった。この間、小学校の計算テストや小テストを実施することにより、生徒の数学の学力を把握していった。4月中旬に習熟度別のクラス編制を行うため、保護者にアンケートを実施した。習熟度別のクラス編制を行うにあたっては、誤解が生まれないように保護者及び生徒本人の意見を尊重した。アンケートを実施した結果、「基礎コース」と「基礎・発展コース」という習熟度別のコース編制をし、5月より少人数指導を開始した。

さらに、中間テストの結果をもとに、再度、保護者および生徒本人にコース変更希望の有無を確認し、希望があった場合はコースの変更を認めていった。その後も、9月（実力テスト後）と12月（期末テスト後）にコースの変更希望調査を実施し、自分にあったコース選択ができるようにした。

授業の実際

一単元の指導の基本的な流れは、小單元ごとに小テスト(10分程度)を実施し、生徒の理解や習熟の程度を把握したり、誤答分析をしたりして、その結果をその後の授業の指導に生かしている。「基礎コース」では主に学習内容の説明と基礎的な問題の反復練習に時間をかけ、基礎・基本の定着を図っている。一方「基礎・発展コース」では、基礎的な学習を一通り終了した後、発展的な問題にも挑戦させている。時間的には「基礎コース」の生徒の指導に時間がかかるので、コース間に授業の進度にズレが生じやすい。そのために「基礎・発展コース」では発展的なプリントを行うことで調整を図っている。

2 1年生英語科少人数指導の実践

コース編制

英語学習がスタ - トしたばかりの1学期は、1クラスを2つの等質集団に分けた。（小学校からの資料を参考に、学力面、生徒指導面に配慮した。）2学期からは、1学期の定期テストの結果を参考に、生徒本人及び保護者から希望を聞き、習熟度別コース（基礎コース・発展コース）に分けた。

授業の実際

1学期

1クラス18人程度のため、ペアでの会話練習などを毎時間行うことができた。その結果、学習意欲が高まり、聞くことや話すことなどのコミュニケーション活動に積極的に取り組めた。また、等質集団であるため、理解力の差はあったが、少人数であるので、それぞれが質問し合ったり、助け合ったりして、理解力の低い生徒も、言語活動に充実感を持って参加できた。また、教師との心的距離も近く、生徒一人一人への質問や対話も多くなり、生徒の授業への集中力が増したように思われる。教師も一人一人の個性や能力を把握でき個に応じた質問や説明をし、個人の学習状況に合わせたよりきめ細かな指導ができるようになった。

2学期

・ 基礎コ - ス

習熟度別であるため、中位・下位の生徒も周りの生徒を気にせず、質問したり、発表したりすることができた。下位生徒にとっては、分からないことを分からないと正直に

言える雰囲気があり、各自が自分なりの学習ペースで理解しようと努力し、達成感を持たせることができた。さらに、音読に時間をかけ、全員が教科書を音読できるようになることを目標に、何回も練習を繰り返し、中には暗唱できるようになった生徒もいて、自信を持たせることができた。少しずつ理解度が増し授業が分かるという安心感から、一斉授業では失いがちな英語学習への興味・関心を持続させることができた。ほぼ毎時間行う小テストについても、ほとんどの生徒が満点を目指して意欲的に学習していた。

・ 発展コ - ス

上位・中位の生徒は、自ら学ぶという意欲が下位生徒よりも高く、集中力がある。そのため新出単語と教科書の音読にはあまり時間を要することなく、授業を進めることができる。そこで、基本練習を行う時には、理解を深めるための文例を補充し、一人一人が確実に新出文型をコミュニケーションの手段として運用できるようになっているかを試す形で授業を行った。教科書の本文の学習では、True or False や英問英答を行った。さらに、音読練習の間に暗唱をするように励ましたところ、授業時間内に暗唱できるようになる生徒も多く見られた。課題については、ある程度自主性を重んじ、単語の予習なども習慣づけるよう指導をした。また、応用的な問題を含む補充プリントにも必要に応じて取り組ませ、表現力・理解力・言語知識をより高められるよう配慮した。今後も各自の能力を十分に引き出し、自信をもたせて、英語への興味・関心をさらに伸ばしていきたい。なお、授業の導入部分において、既習の文や単語を使って質問し答えさせる言語活動も継続して行ってきた。その結果、英問英答に慣れることによって、コミュニケーション活動にも臆せず取り組んでいる。

( ) 成果と課題

1 成果

現段階では、学力の向上を数値としてとらえることはできないが、例年と比較すると、基礎・基本を理解している生徒の割合は増加傾向にある手応えを感じる。

「授業に関する事後の意識調査」をみると、「積極的に発言ができる、質問がしやすい、自分のペースで学習できる。」等、意欲的に授業に取り組む生徒の姿を伺うことができた。また、「授業がわかる、楽しい」という感想が多数あり、わかる喜びや楽しさ、成就感等を味わわせることができ、学習意欲の向上につながった。

生徒と教師、生徒同士の間関係を深めることができ、互いに向上していこうという雰囲気の中で授業を進めることができた。

2 今後の課題

効果的に学習指導するための少人数編制

標準学力検査や知能検査の結果を活用した指導方法や授業の改善

少人数指導を担当している教師の打ち合わせ時間や教科部会の確保

( ) 成果の普及方策

1 10月24日(木)に、尾西市で1年生数学科と英語科の習熟度別指導と1年生理科のチームティーチングの公開授業を実施し、市内の先生方に参観していただくことによって、普及に努めた。

2 11月27日(水)に、中島地方校長会で研究内容について報告した。

3 12月17日(火)に、尾西市の教務主任者会で本年度の研究のまとめについて発表した。

4 1月31日(金)に、丹葉・中島地区協議会で本年度の研究のまとめについて発表した。

5 ホームページについては、本年度の研究要項をもとに現在、作成中である。